

やはり俺の暗殺業は間  
違っている。

神眼の勇者

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

どこにでもいる少年の暗殺業のお話。

# 目次

2 日 目	設 定	一 日 目
17	10	1



## 一 目 目

~~~~とある月の夜~~~~

八幡「今日は、眠くてやる気がでない、でも仕事だから一応頑張らしようか。」

そう考えながら、俺はナイフを取り出し、抹殺対象の首を斬った

~~~~一時間後~~~~

八幡「今日の、獲物は手応えが全然なかった、次の獲物に交互期待だなくまあいいつか、てかさろそろ学校行かねえとヤバいなくでもE組に落ちても、どうでもいいけど本校舎の奴らは糞だし、カルマはE組に行ったつしあれ？E組に行った方が得する。」  
そう考えながら俺はベットに入り寝た。

~~~~次の日~~~~

八幡【ひとまず学校に行こうかな】

〃〃一時間後〃〃

先生【おい！比企八、理事長が呼びだ】

八幡【まあ、どうせE組行きの事だろう】はい。】

〃〃数十分後理事長室前〃〃

コンコン

俺はノックをした

理事長【入りなさい】

八幡【はい。】

ドアを開けて俺は入った

八幡【失礼します】

八幡【何のようですか？】

理事長【君は、無断欠席が多いようだね、でも成績がいいからとても惜しいが、君ばかりを特別扱いはいけないから、それと君の眼は濁っていて、他の生徒から苦情がきている、だから君はE組行きだ。】

八幡「はい、それじゃまあ明日からE組にいけないでしょうかね。」

八幡「それでは、明日の準備があるので、家に帰ります。」

理事長「そうしてくれると助かる。」

八幡「失礼しました。」

そう言つて俺は理事長室を出た

～～～家の中～～～

八幡「はやくつぱり俺はE組行きかまあ、いいけどこれで、またカルマと一緒にここでまた学校か面白くなりそうだな、でもその代わりに、暗殺依頼控えないとな

まあ、それはそれでいいけど。」

ピンポン

八幡「何だろうか？はい。」

～～～玄関～～～

ガチャ

八幡「どちら様でしょうか？」

烏丸「君が今度からE組にくる比企八君八幡かな。私は防衛省の烏丸といものだ。」

八幡「はい、そうですか、ではその防衛省のかたが何のようですか。」

烏丸「今、E組では、あるものの暗殺が行われている、それで明日からE組にくる君にもその暗殺に加わって貰

いたい。」

八幡「へーそうなんですか、まーあ玄関では何ですから

あがつていつてくください。」

烏丸「そうさせてもらおう。」

くくリビングくく

八幡「これ、粗茶です。」

烏丸「ありがとう。」

八幡「まず、暗殺って何でしょうか、そこを詳しく教えてください。」

烏丸「君は月が7割蒸発した事件を知っているかい？」

八幡「まーあテレビでちよくちよく報道されているんで

人並み程度には知っています。」

烏丸「それは助かる、これは極秘任務として他言無用だ、月を7割蒸発させたのはあの超生物だ、その超生物は来年の3月には、地球も破壊すると言った世界各国のトップ



たちは、何としてもこの超生物を殺そうとした」

「そのすべてが無駄だった、だが奴は《殺されるのは嫌だが柵ヶ丘中学校のE組の先生ならやっていい》と言ってきた」

「そこで各国のトップはチャンスと見てE組の生徒たちにこの超生物の暗殺を依頼した。」

「それで、今E組では、超生物の暗殺が行われている。そこで明日からE組にくる君にもその暗殺に加わって貰いたい。」

「一応言っておくが奴には通常の銃等は奴には効かない奴に効くのはこの特別に作られたナイフやB弾が奴に効く普通の人には無害だが奴には豆腐を斬るように効く、そこで君に聞きたい君はこの暗殺に加わろか、加わらないかを加わりたくなければいつでもそのときは一応処置しておこうだがこの事は極秘だから君の記憶は弄らせてもらおうが。」

八幡「いやーいいですよこんな面白い事は滅多にないから僕も暗殺に加わりますよ、まーあその前に一応僕も言っておきましょうかね、本当はこの事はもうすでに知っています昨日もこれに似たことを聞きましたからね。」

烏丸「なに！それはどう言うことだ、詳しく教えてくれないか」

八幡「それは簡単な事です、貴方達防衛省は昨日誰と会いましたか、それを思い出

せば答えは出てきますよ。」

烏丸「昨日は死神に並ぶと言われる暗殺者墮天使ルシファーに会いに行つたが奴は女性に見えた君は男性だ

それに失礼だが君と彼女じゃ目が違いすぎる。」

八幡「まーあそうでしょうね、あれは女装ですよそれとこの目はカラコンですよ元の目だとすぐばれそうですからねそうです私が暗殺者墮天使ルシファーですよお見知り置きを。」

烏丸「それでは、生徒とは別で暗殺者として君に依頼しよう奴を3月までに他の生徒と一緒に暗殺してくれ。」

八幡「いいですよそんなにかしこまらなくてもいいですよ貴方の方が歳上ですしその依頼お受けしましょう。」

烏丸「それでは、俺はそろそろ帰らしてもらおう奴に効く特殊加工した武器はここに置いておく何か他に武器があるようであつたら私に言つてくれ。」

八幡「はい、そうさせてもらいます、それではまた明日E組の教室で会いましょう、ダスヴィダーニヤ。」

ガチャ

八幡「はーもう帰つたかそれにしても、波乱万丈過ぎだろいつの時代にいるんだよこ

んなタコみたいな生き物はこれを殺れとかしかも普通の武器じゃ効かないしマツハとかもうムリゲーだよ全くてか最近死神が居なくなつたから俺の仕事多すぎだろ次会つたら殺す。」



八幡【はーもう寝よ。】

## 設定

### 設定

名前 比企谷八幡

二つ名（コードネーム） 墮天使ルシファー

誕生日 8月8日

経歴 元FBI特務捜査官だったが、ある事件のせいでFBIを抜けて暗殺者になった、墮天使ルシファーと言われているのはこれが原因この事件を知っているのは元部下と元上司だけ、だから他のFBI捜査官達は八幡の事を裏切者と呼ぶ

容姿 原作の八幡の濁った目はカラコンとして本当の色は蒼色にして髪もウィッグとしてアホ毛もそのままにして髪の色を白銀色、髪の色は肩より少しした

CVは勿論江口拓也さん

身長 180cm

体重 60kg

好きな物 マッカン、生き別れた妹、死神との戦い、飼っているペット、甘い物、日

本のアニメ

嫌いな物 心が汚れている奴、仲間を傷つける奴、ある事件を起こした奴、

趣味 読書、武器の手入れ、イタズラ、ゲーセン、飼っているペットの世話、アニメ  
宝物 十字架のネックレス、生き別れた妹の写真、

たまに世界各国の言葉が混じる

所有武器 レイピアや大鎌そして鎖系の武器まだ増えるかも

性格 原作よりあまり捻くれてない、DSでイタズラ好きでよくカルマと一緒にいる、いつもは優しいが親しい者や仲間が傷つくのを見ると激怒して誰も手をつけられない

秘めている力 超高速思考（常人の何倍もの速さで物事を考えられる、これを使うと脳が凄く疲れるだから糖分を大量摂取しないとイケないだからマツカンは必需品）

他に色々まだ増えるかも

得意戦闘スタイル レイピアでの高速斬撃それと大鎌の力任せの斬撃なスピードタイプとパワータイプのどちらかで基本は相手を倒すだが相手が脅威的なスピードタイプの時は鎖系の武器で変則的な動きと拘束で相手を錯乱させるテクニクタイプで倒す

苦手戦闘スタイル 苦手な戦闘スタイルはないがある事件の時のトラウマで銃全般使えなくなった、もし使おうとすると発作が起きる

個別能力値 「5段階評価」

体力 5

敏捷性 5

学力 5

近距離暗殺 5

遠距離暗殺 1 (トラウマが消えれば5)

固有スキル 超高速思考、鎖による立体移動、

作戦行動適正チャート「6段階評価」

作戦立案 5

指揮、統率 6

実行力 5

技術力 4

探索、諜報 6



## 政治、交渉5

クラスの評価

カルマ↓親友（イタズラ仲間）

磯貝↓頼れる仲間

岡島↓怒ったら鬼

岡野↓カッコいいかも

奥田↓頭がよくて優しい人

片岡↓頼れる仲間

茅野↓プリン仲間

神崎↓ゲーセン出会ったことあるけど忘れられている

木村↓頭がいい

倉橋↓動物好きに悪い人はいない

渚↓頼りになるけど、女性の服を進められる解せない

菅谷↓アニメの絵が上手い

杉野↓運動神経がいいからフォームを見てもらっている

竹林↓気が合うからメイド喫茶に誘いたい

千葉↓頼れる仲間

寺坂↓気に入らない

中村↓イタズラ仲間

狭間↓いい具合に染まっている

速水↓面白い奴

原↓料理のライバル

不破↓漫画仲間

前原↓いい奴

三村↓頭がいい奴

村松↓ラーメンの味を見てもらっている

矢田↓優しい

吉田↓頭がいい

八幡から見た見たE組の評価

カルマ↓親友（イタズラ仲間）

磯貝↓優しい心の持ち主、委員長

岡島↓変態、

岡野↓仕草が可愛い

奥田↓メガネ少女はやはり可愛いそれと、クロロホルム作れるかな？、

片岡↓女だけどカッコいい、委員長

茅野↓プリン仲間、何かを隠している？

神崎↓大和撫子、どっかで会ったことあるかな？

木村↓カッコいい名前（笑）

倉橋↓動物好き、ゆるふわで可愛い

渚↓どう女の子の服着せよう

菅谷↓絵が上手い

杉野↓上手くなる

竹林↓アニメ関係で気が合う

千葉↓目を見たい

寺坂↓単細胞

中村↓イタズラ仲間、

狭間↓ホラー

速水↓ツンデレで可愛い

原↓お母さん見たい

不破↓メタい、小さくて可愛い

前原↓女たらし

三村↓プロデューサー

村松↓ラーメンを美味しくさせたい

矢田↓ポニーテール可愛い

吉田↓バイク好き

## 2 日目

〃〃通学中〃〃

八幡「ハー、どうして俺がこんな坂上らないといけないんだ。」

そう、愚痴をこぼしながら俺はE組がある旧校舎に向かっている

? 「ヌールフフ、君が新しくE組に来る比企谷八幡君ですか。」

声のする方え顔を向けるとタコみみたいな生き物が立っていた、まーあどう見てもこいつがターゲットだろ

八幡「えーと、あなたがあのターゲットさんですか。」

「そうですね、私がE組担任の先生ですそして君たちのターゲットですヌールフフ。」

八幡「そうですね、それでは私が新しくE組に入る比企谷八幡ですそしてあなたを暗殺する人です。」

「殺れるといいですね来年の3月までにヌールフフ。」

しようがない挑発にのるとましようか

八幡「殺りますとも来年とは言わず今日までにも。」

【それは楽しみです。ね、手入れのしがいがありますね。】

八幡【それでは、また後程に。】

〜30分後〜

茅野【渚知っている。今日本校舎から転級する人がいんだって。殺し屋かな。】

渚【うん、知っているよ。まあそろそろ時期的に来てても可笑しくないと思うけどね。でも元々この学校にいた生徒らしいからなあ。】

小柄で髪型も似ている男女がたわいもないはなしをしていると

【皆さん、おはようございます、席に着いてください。】

皆が気付くとタコ型生物と烏丸さんが入ってきた

磯貝【先生、烏丸さん今日転級生がいるんですよね。】

烏丸【ああ、今廊下で待たせている、入ってきてくれ。】

八幡【皆さん、初めまして。元A組の比企谷八幡です。よろしくお願いします。】

前原【あんな奴いたっけ？】

茅野【なんか暗くて怖い。】

寺坂【てか、目が腐ってるだろお。】

八幡【皆さん、酷いですね。まあ良いですか、皆さん起きずでしようが私は殺し屋ですよ、そしてこれは数ある殺し屋スキルのひとつ変装ですよ。】

そう言つて俺はカラコンとウィッグを取つたそしてその時皆思つただろう

《変わりすぎだろ》

八幡（でも、本当にタコ型生物が動いているなある意味凄いな）ターゲツトも驚いてどうするのアハハ！それにしてもカルマいないねまだ停学くらつているの。」

「すみません、とてもの変わりようでびっくりしました

貴方はカルマ君と名が良いのですか。」

八幡「うん、親友だよカルマ位だよ俺が変装なの知つているのは、まあ殺し屋のことは教えていないけどねそれじゃあ自己紹介がわりに殺し屋のスキルを御見せしようか。」俺はそう言つと鞆からレイピアを出した。

八幡「さあ、最高の時といこうではないかイツツ・シヨータイム。」